

ブラジル最新政治経済情勢について

Insights from UBS Asset Management

ポイント

- ・ルラ元大統領の出馬に赤信号が灯り、構造改革路線の継続期待が強まりブラジル株と通貨レアルが上昇
- ・世界好景気とブラジル中銀による金融緩和の継続などを受けて、ブラジル成長率見通しは上方修正へ
- ・大統領選挙の見通しは不透明だが、景気回復軌道はより鮮明となり、ブラジル資産選好の動きは継続へ

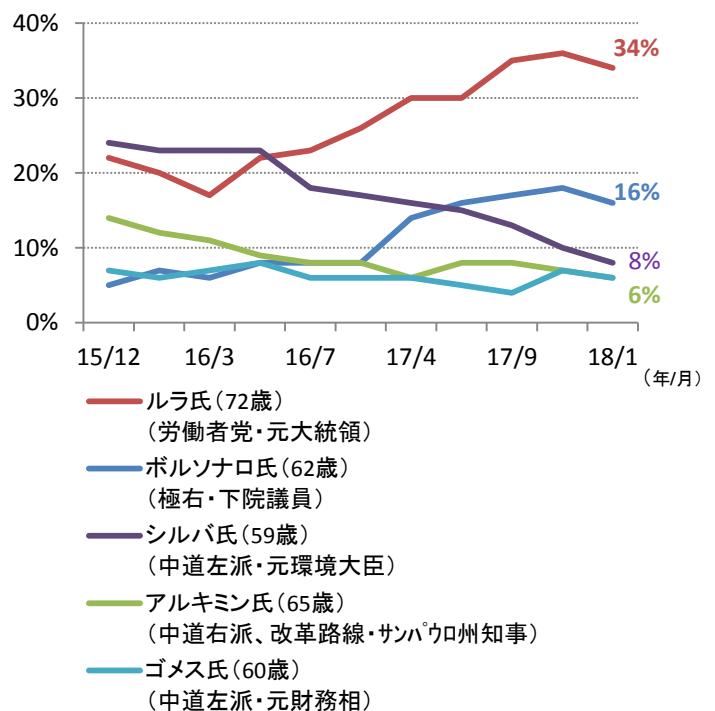
ルラ元大統領は二審も有罪判決

- ✓ 1月24日、今年10月に実施されるブラジル大統領選挙を大きく左右する判決が下った。国民からの人気が高く世論調査のトップを走ってきたルラ元大統領に、有罪判決が下されたのだ。ルラ氏が「大統領選挙に出馬できる可能性は大きく後退した」と現地紙や市場関係者が報じている。
- ✓ この見立てが正しく、ルラ氏が主導する左派勢力の影響力が後退した場合、テメル政権下で実施された構造改革路線が継続されるシナリオに期待が高まることになる。この判決後、ブラジル株式市場では主要指数が2営業日で6.0%上昇し、為替市場でもレアルが対ドルで4ヵ月ぶりの高値まで上昇した。
- ✓ 追い込まれたルラ氏だが、未だ連邦最高裁への上告が可能な状況下、出馬を諦めていない。判決後に実施された世論調査でも、圧倒的な支持率を維持しており、今後の世論の変化を見極める必要がある。
- ✓ 最有力候補の脱落の可能性は高まったものの、ルラ氏以外に強い候補が見当たらない。リスクとして各候補が大衆迎合的な政策で人気集めに走るシナリオも想定され、大統領選挙の見通しは混沌としている。

- ✓ 今後のブラジル政治及び経済政策を占う上では、2月から再開される年金改革法案の審議の行方に市場の関心が向かうと見られる。人気が低迷している与党陣営からの巻き返し策などに期待を向けるだろう。

■ブラジル大統領選挙に関する世論調査の推移

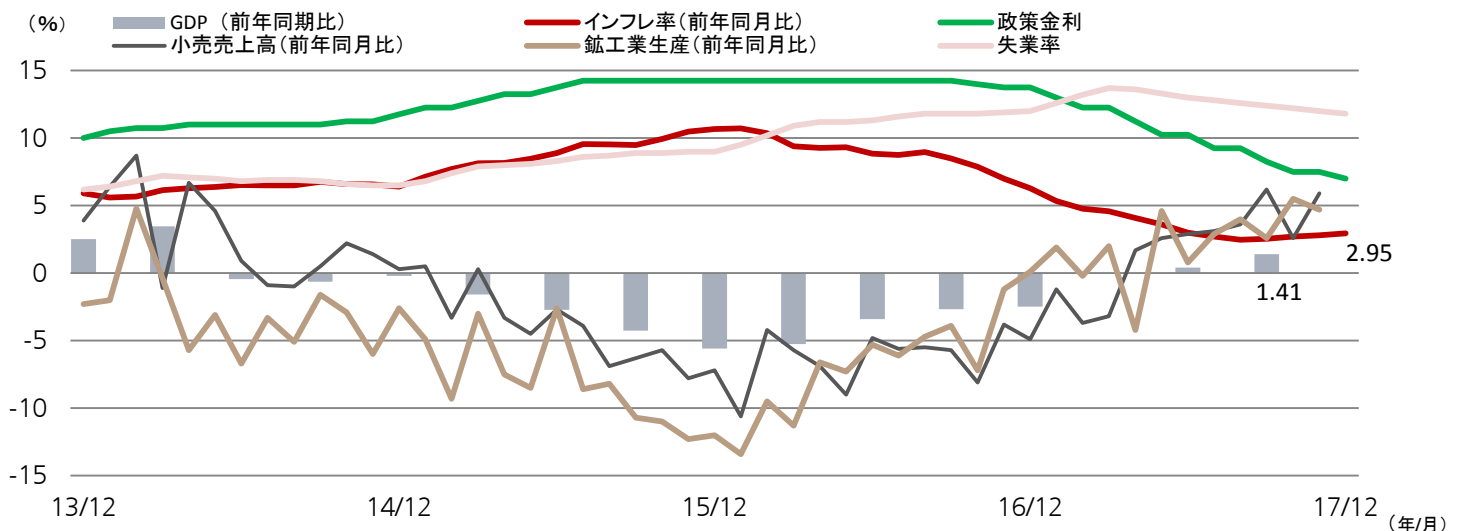
(2015年12月16日～2018年1月30日)



今後のブラジル政治・経済、金融市場について

- ✓ 経済面では、国内の景気回復基調が継続している。2017年7-9月期のGDP成長率は前年比+1.4%となり、足元の小売売上高や鉱工業生産も前年比で高い伸びを維持している。世界景気の加速見通しや国内の低金利などが2018年のブラジル経済の追い風になると見られる。IMFは1月の改定見通しでブラジルの成長率を2018年は+1.5%から+1.9%へ、2019年は+2.0%から+2.1%へ上方修正した。UBSグループも、今年に入り2018、19年GDP成長率見通しを+3.3%、+2.7%へそれぞれ上方修正している。
- ✓ 金融政策は、年内は緩やかな金融環境が保たれるとの見通しだ。インフレ率は2016年1月の前年比+10.7%以降は徐々に低下し、2017年7月以降は中銀の目標範囲(3-6%)の下限を下回っている。足元のインフレ率は2.95%だ。市場では、中銀は次回2月6-7日の金融政策決定会合で0.25%の利下げを実施後、年内は政策金利を据え置くと予想している。
- ✓ 政局面では、テメル政権は、議会の休会明けの2月初に年金改革法案の審議を進め、採決を行なう方針だ。採決は難航が予想され、同法案の扱いが大統領選挙後の新政権に持ち越される可能性もある。引き続き大統領選挙を含む政治の動きが、今後も市場の不安定要因となる。ただし、景気回復が国民の懐を温め、構造改革路線を支持する動きが高まれば、改革路線が次期大統領に継承されるシナリオが強まるだろう。
- ✓ 金融市場においては、今後もブラジル大統領選に対する様々な思惑が市場の変動に影響すると見られる。一方、景気回復への自信が政治への不安を抑え込むと見られ、リスク選好ムードが強まる中、グローバル投資家は徐々に安定感が高まっているブラジル資産を選好する動きを継続すると見られる。

■ブラジル政策金利および主要経済指標の推移 (2013年12月～2017年12月)



出所：トムソンロイター、各種情報を基に当社作成。上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

商号： UBS アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第412号
 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとにUBSアセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2018. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。